

動物の診察室から

○ 17 ○

ある日の夜電話が来ました。

病院についたワンちゃんを診察してみると、飼い主さんが言われるように胃捻転でしたので、すぐに開腹手術となりました。手術後二日目で、食事を与えたのですが、人前では食べずに夜中のうちに食べるのです。昼間はまったく食事をさせませんし、スタップの気配がする時はまったく動こうとしませんので、四日目に

胃捻転は食事の後に運動をすることにより起こ

す。頭部にも大きな傷あとがあります。前の施設で、食事をまともにももらえず、ひどい虐待を受けて



保護された時のアンナちゃん(左)と今は幸せなアンナちゃん

心の傷

人間不信克服し幸せに

とができません。人んでした。人に甘えることも、感情を出すこともできなくなっています。でも今は、新しい飼い主に、たくさん愛情をもらって過ごしています。アンナちゃん、これからは幸せに過ごしましょうね！

りやすへ、胃が時計回りに捻転してしまう病気で、胃捻転を起すと、胃の中にどんどんガスがたまってしまい、胃の血管を圧迫し、早急に対応しないと死亡してしまいます。大型犬に起こりやすく、飼い主さんはグレートデンを飼う時に勉強し、そのことを知ってい

で退院することになりました。グレートデンの名前は「アンナちゃん」。一年前に、ある施設から今の飼い主さんが保護して

今は五〇キ近い体重がありますが、一年前保護された時は、ガリガリにやせて餓死寸前の状態でした。硬いところで寝ていたと思われ、ひじや肩に

いたこのことです。そのため、今でも人前では食事をすることも排尿をすることもできません。人があるときだけ吠えて動くことができません。来た当時は、散歩へ

連れて出ても、おびえて歩くことができませんでしたが、今の飼い主さんのところへ来て、少しずつ散歩もできるようになりました。そして、飼い主さんは、あちこちのドッグランにアンナちゃんを連れて行ってあげま

ました。アンナちゃんは、

は大きな床ずれができ、

は大きな床ずれができ、

は大きな床ずれができ、

は大きな床ずれができ、